

## 第39回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会

### 【今大会レギュレーション(TD通達)】

- 1. 大会運営** 本大会の運営は、(公社)日本ホッケー協会競技運営規定ならびに第39回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会実施要項によります。
- 2. 競技規則** (公社)日本ホッケー協会2017年度6人制ホッケー競技規則によります。
- 3. 競技時間** 試合時間は、前半10分・後半10分とし、前後半の間に5分間の休憩をおきます。
- 4. 競技方法**
  - (1) 予選リーグ、決勝トーナメント、フレンドリーリーグを行います。
  - (2) 参加チームを男子6グループ、女子5グループに分けます。予選リーグを行い、各グループ第1位・第2位チームによる決勝トーナメント、第3位・第4位チームによるフレンドリーリーグを行います。
  - (3) 決勝トーナメントにおいて、規定の時間内に勝敗を決しないときは3分後に延長戦を行います。時間は各3分・2ピリオドとし、両チームは2ピリオドの間にサイドチェンジを行うが休憩時間はおきません。この延長戦は、いずれかのチームが得点した時をもって終了します。この規定の時間内に勝敗を決しない時は、「6」に定めるSO戦を行い、勝敗を決します。
  - (4) 予選リーグ、フレンドリーリーグは延長戦を行いません。
- 5. リーグ方式での順位決定方法**
  - (1) 勝ち点の多いチームを上位とします。勝ち点は、勝利チームに3点、引き分けチームに1点、敗戦チームに0点をそれぞれ与えます。
  - (2) 勝ち点と同じ場合は、リーグ終了後、「6」に定めるSO戦により順位を決定します。なお、同位チームが3チームの場合のSO戦は、同一チームが連勝したとき、そのチームを1位とします。1位チームが4チームの場合のSO戦は、トーナメント方式で実施し、順位を決定します。そのトーナメントの組み合わせは抽選とします。
- 6. シュートアウト戦(SO戦)**
  - (1) 両チームの主将は、自チーム内よりレッドカードによる退場処分を受けている選手を除いた出場登録済みの選手の中から3名の選手(シューター)と1名のゴールキーパーを指名します。
  - (2) 両チームの主将によりトスを行い、先攻・後攻を決めます。その後両チーム3名ずつのシューターにより交互に攻防を1巡行い(計6本)、得点数の多いチームを勝者とします。
  - (3) (2)の方法によって勝敗を決しないときは、「サドン・デス方式」、すなわち両チームが同数のシュートを行った中で最初にリードしたチームを勝者とする方式により、再SO戦を行います。この時は、最初先攻のチームが後攻となり、選手はプレー不可能な者を除き各チームは最初と同じ選手で行います。ただし、順序は変えられます。
- 7. 試合の中断と追試合**

天候等のやむを得ない理由により試合が中断された場合は、下記により試合を再開します。

  - (1) 再会の試合の場合は、中断した時の得点で残り時間のみ試合を行います。
  - (2) 再会の試合の期日・競技場・審判員等は、これを変更する場合があります。
- 8. チームベンチ**

チームベンチには、プログラムに記載された者、同じ種別の団員および救護員4名以外は入ることができません。学校関係者等がベンチに入りたい場合は、TDの許可を受けて下さい。
- 9. フィールドへの立ち入り**

試合中、選手にケガ等が起こった場合は、手当てをする者および監督・コーチどちらか1名が、当該審判員の許可を得てフィールド内に入り、手当を行うことができます。(コーチングは禁止)
- 10. 選手の交代**
  - (1) 選手は、試合中随時交代できます。ただし、ペナルティコーナーが与えられている間は交代できません。(負傷した守備側のゴールキーパーは除きます)。
  - (2) 選手の交代は、ジャッジ席前方のセンターライン付近で行われます。その際、時間の停止は行

われません。ただし、ゴールキーパーおよび負傷者の交代については、審判員の管理下で行われます。

## 11. 平成29年度ルールの確認

- (1) 試合開始時はセンターパスとします。
- (2) フリーヒットは、ボールをしっかりと静止してからプレーをはじめます。  
(ヒット、プッシュ、フリックに加えてスクープで始めることができます。)
- (3) センターライン上に置かれたボールは自陣エリアと見なします。  
(味方：4 m以内に入れる←→相手：4 m離れなければならない)
- (4) サイドライン上からのヒットインは、全てボールが出た場所から再開します。
- (5) コーナー再開位置(規則 7.4b)について、ボールがバックラインを横切った地点の延長線上でバックラインから16 m地点より実施します。
- (6) PC 時におけるフライング(攻撃側・守備側) およびフェイントについては、罰則としてセンターラインに戻します。
- (7) ハイスティックに関しては、危険防止のため、従来通り禁止とします。
- (8) PC の後に、コート内に残っていた不要になった守備側選手の装具にボールが当たった場合には、サークル外ならFH、サークル内ならPCになる。(2017 新規/規則 9.16)

## 12. 確認事項

- (1) 選手はシャツ(ブラウス)裾を常にきちと処理し、すね当てを必ず着用し、ストッキングをひざ下まであげて履いて下さい。
- (2) キャプテンは、キャプテンマークをつけて下さい。
- (3) ゴールキーパーは、装具を完全に着用し、アンダーパットもチームの責任で装着してください。
- (4) 振りかぶってのリバースシュートは禁止とします。
- (5) チームベンチは、「試合日程」表の左側のチームが赤い印のついたベンチを使用します。
- (6) 試合開始15分前にリングパスおよび服装・装具の点検を実施します。次試合ベンチで待機下さい。なお、メンバーチェックは「登録証」を持参して行う。装具の点検は1試合目のみ行います。
- (7) スターティングリストは試合開始30分前までに大会本部に提出下さい。
- (8) ペナルティーコーナーの保護具は試合開始前にTOに使用確認して下さい。
- (9) 応援者は、競技場内には一切入れません。(監督から応援者に事前に説明して下さい)
- (10) 全試合とも人工芝コートで行いますので、「ポイントスパイク」の使用は認めません。
- (11) 乱暴なプレーや審判員に対する不服等、スポーツマンらしくない行為は、戒めます。(監督・応援団についても同じです)  
なお、昨年度より、全チーム監督は「行動規範確認書」に署名し提出することが義務づけられました。(2017 競技運営規程 付属書4 参照)・・・指導者講習会にて説明の後→提出
- (12) 選手が負傷により出血したとき。頭・顔・心臓付近にボールが当たったとき。審判員が負傷の状況を確認し、退場を命じられたときは直ちに退場します。止血処理と傷の手当が完了するまでは、再出場できません。(2分以上の安静が必要です。)
- (13) 「負傷・事故報告書」の提出を課せられた者は、医師による治療後、負傷事故報告書を提出し、TOまたはTDによる本人の健康確認のうえ、次試合の出場を認めます。負傷事故発生後、試合のないチームは、負傷 事故報告書を大会事務局に郵送して下さい。
- (14) 試合開始時間に6名そろわない場合。または試合中に退場・怪我等により、1チームの人数が3名以下になったときは、その試合を没収試合とし、相手チームの不戦勝とします。
- (15) 全国スポーツ少年団ホッケー交流大会において、抗議制度はありません。
- (16) 競技場コートの広さは、長さ50m・幅30mです。サークル外4mの破線を描きます。
- (17) その他、本規定に定めのない事項、または食中毒等不測の事態が発生した場合は、TDの指示に従って下さい。